

弘化三丙午年
諸國人數調略 ○ 中
御料私領
一人數五拾貳萬千七百七拾七人

高百万五千七百七石餘
常陸國

内 貳拾六万九千八拾貳人 男
貳拾五万貳千六百九拾五人 女

〔人國記〕常陸國

常陸國之風俗如形不可然而唯盜賊多シテ夜討推込辻切等ヲシテ其惡事顯レ罪科ニ行ハル、トイヘドモ耻辱トモ且テ不思結局至其子孫ニハ病死カドハ不爲ナド、一ツノ系圖ニ而盜賊スルヲ微塵モ非義非禮ト云事ヲ不知ヤウノ風儀ニテ唯肝膽之間逞ク生レ付テ如此ト見ヘタリ、武士之風儀モ是ニ不替而道理ヲ知ル人少シ、夕トヘ知テオヘドモ我意ニマカセテ執行故ニ理ニ似タル無理義ニ似タル不義ノミ多而更ニ善ト難云世之唱フルニモ常陸國ヲ差而全キ人ナキ國ト呼リ昨日味方ニテ今日ハ敵ト成ノ風儀ハ千人ニ一人モナシ若シ國風之垢ヲケヅル人アラバ天下ニ名ヲ呼程之者ナルベシ、

名所

〔日本鹿子七〕同國陸 ○ 常 名所之部

鹿島宮 緣記草創くはしくは神社の部に有之也

常陸なる鹿島の宮の宮柱猶万代も君がためとか

鹿島か崎 かしま郡の海邊なり

霞ふるかしまが崎の浪高み過てやゆかん戀しきものを

築波山 當國の海邊にある山なり觀音の靈地也

今ばとて心つくばの山みれば梢よりこそ色かはりけれ

水無能川 櫻川 右ふたつの川ひとつ流なり水上をさくら川といひびすそを水無能川といふ

といへり此所明神の宮井山の上に立給ふ櫻の木多し依之櫻川と云といへり川はふもとを